

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

春の日差しを感じる今日この頃であります、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、愛知県議会は今年度一般会計予算をはじめ全ての議案を可決承認し、任期中最後の定例会となる2月議会が先月20日に閉会となりましたが、議会審議の過程では多くの議員から様々な質問・提言が為されました。

私も所属の農林水産委員会において6次産業化の推進や林業振興に関する県としての取り組み状況等を確認し提言すると共に、本会議においては、大規模自然災害への対応として、国が平成25年12月に施行した「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」に基づく取り組み状況の確認と、風水害に備えた新たな減災ツールとして、タイムラインの活用に関する県の考えを質しました。

特にこのタイムラインについては初めて耳にした方も多いかと存じますが、台風の進路等を予め予想し、その影響が最大になる事が予想される時間帯を基準に、その数日前から何時・誰が・何をするかを事前に決めておく新たな手法であり、平成25年の伊豆大島における土砂災害以降、注目を集める防災減災対策の一つであります。

県防災局長の答弁では、伊勢湾台風を超える規模の台風を想定した危機管理行動計画の見直しを国を中心に進められており、その中でタイムラインの活用も検討されているものの、避難勧告を出すタイミング等、克服すべき課題も多くある事から、引き続き国の検討に参画していくとの事でありましたが、県民の皆様様の生命・財産を守る事は、県政に課せられた第一義の役割でありますので、今後も多くの皆さんからご意見を頂戴しながら、防災減災対策の充実に努めてまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず
樹神 義和 